

### 3 定時制課程（定時制・フレックス高校）で学ぶ

対  
談

主に働きながら学ぶ人や、学校以外で過ごす時間を有効に使いたい人のための課程です。夜間部定時制高校と、昼間部・夜間部の定時制を設置するフレックススクールがあります。修業年限は基本的に4年ですが、3年で卒業できる「三修制」をとっている学校もあります。

授業時間帯は、学校によって多少異なりますが、夜間部の多くは午後5時30分頃から午後9時頃まで4時限の授業をしていて、修業年限は、原則として4年です。昼間部は午前9時頃から、全日制とほぼ同じ時間帯で授業をしていて、修業年限は3年又は4年です。

教科・科目は、全日制と全く同じで、普通科では国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭等があります。また、工業科、商業科では、上記のほかに、それぞれの専門教科・科目を学習します。

で学ぶ  
全日制課程（全日制高校）

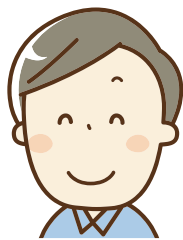
で学ぶ  
定時制課程（定時制・フレックス高校）

#### フレックススクール

県立前橋清陵高等学校と県立太田フレックス高等学校は、昼間部と夜間部を併設した定時制単位制高校で、学年による教育課程の区分を設けない無学年制を特徴としています。

学校の定めた教科・科目の中から生徒が自分で科目を選択し、時間割をつくります。修得単位を加算して、条件を満たせば3年間で卒業することもできます。一人一人の生活スタイルを大切に誰でもいつでも必要に応じて、高等学校教育が受けられるように設置された、新しく柔軟な学習システムの学校です。

で学ぶ  
通信制課程（通信制高校）



フレックススクール教諭  
Fさん

一定の必修科目の履修を条件に個に応じた時間割を組むことができ、卒業に必要な単位（各学校が個別に定めています。）の修得を目指します。学年やクラスの枠がないので科目履修の自由度が高く、異年齢の人と一緒に授業を受けることとなります。

で学ぶ  
高等学校卒業程度認定  
試験合格を目指して学ぶ

夜間部定時制高校			フレックススクール
普通科	工業科	商業科	普通科
県立沼田高等学校	県立前橋工業高等学校	県立高崎商業高等学校	県立前橋清陵高等学校
県立館林高等学校	県立高崎工業高等学校	桐生市立商業高等学校	県立太田フレックス高等学校
県立藤岡中央高等学校	県立桐生工業高等学校		
県立富岡高等学校	県立伊勢崎工業高等学校		
県立安中総合学園高等学校	県立渋川工業高等学校		

資  
料

## 【事例4】

### ● 19歳で高校進学。友人との出会い、夢…新しい人生が始まりました。

「中学校を卒業したら高校に進学する」という人生を、15歳の私は選択することができませんでした。

私には、持病によって一週間ほどしか中学校に通えなかった過去がありました。健康状態、学習や精神面の不安、家庭の経済的事情もあって、高校には行きたいけど、その自信を持ってないもどかしさの中、体調を優先させながら働く道を選びました。

そんな私の気持ちを理解して応援してくれていた母が、長い闘病生活の末に亡くなった時、覚悟はしていたけれど、たった一人の家族を失い、頼るあてもない人生に希望はなく、全てが止まったようでした。

その母が、ボイスレコーダーの中に「あなたは勉強が好きなんだから、高校に行ってくれたらお母さんは嬉しいよ」と、絞り出すような声でメッセージを残していました。最愛の母の死を実感できないながらも、母の声に後押しされて高校入学を心に誓いました。

そうして迎えた19歳の春、念願だった高校に入学。昼間はバイトをしながら夜間定時制高校に通いました。しかし、同級生より4歳年上という年齢の壁に直面し、「卒業だけを目標に登校しよう」と心を閉ざしていました。ある日、何気ない会話をきっかけに、悩みを打ち明けてありのままの自分を話せる友人に出会うことができました。「確かに私には順風満帆とは言えない過去がある。でもそれも全て含めて、ありのままがいいんだ」と思えるようになりました。

この気持ちの変化が大きな転機となりました。家庭科の先生の理解もあって始めた「調理クラブ」。徐々に仲間が増えていきました。その活動の中で得られた新しい感動、自分の企画に多くの仲間が力を貸してくれたことで生まれた自信、「おいしくて元気出たよ」「レシピ教えて!」という一言の幸福感は、栄養士になりたいという新しい夢に変わりました。再び動き始めた私の人生。高校で得た自信と、周囲の支えに感謝する心を胸に「これからの私」を楽しんでいきたいです。

<Gさん(女) 専門学校生>

## 【事例5】

### ● 全日制高校を1年夏に中途退学。秋入学でもう一度野球を始めました。

「甲子園出場が夢」小学生で始めた硬式野球、クラブチームでは4番、ピッチャーとして活躍していました。実績のある高校の野球部を目指して自宅でもトレーニングに励み、念願叶って入学が決まった時には親子で抱き合って喜びました。

しかし、喜びはつかの間、入学直後から、これまで順調だった身体に痛みを感じるようになりました。思うように動けなくなっ



対  
談

で学ぶ  
全日制課程(全日制高校)

で学ぶ  
定時制課程(定時制・フレックス高校)

で学ぶ  
通信制課程(通信制高校)

で学ぶ  
高等学校卒業程度認定試験合格を目指して学ぶ

資  
料

てから練習に参加するのがきつくなり、気持ちも沈んでいき、いつしか学校に行くのが辛くなりました。

すっかり自信を失ってしまった私は、両親に相談して夏の大会が始まる前に監督に退部届を提出、そして学校も退学しました。

退学後、しばらく気力もなく毎日を過ごしていた時、父が「秋入学生募集」のパンフレットを見せて、軟式野球部への入部を勧めてくれました。野球が大好きで小学生の頃からずっと応援してくれていた父が「もう一度、野球をやってみたら」と声を掛けてくれたのが嬉しくて、入試を受けることにしました。入試の面接で志望動機を訊かれ、「この学校で野球をやりたい」と力を込めて答えました。

フレックススクールに入学を果たした直後から軟式野球部に入部、ピッチャーとして再びマウンドに立つことができ、翌年には県代表として全国高等学校定時制通信制軟式野球大会の北関東大会に出場、2年連続して全国大会に進むことができました。

入学した3年後の秋、無事に高校を卒業できて県内の企業に就職しました。今も実業団チームで野球を続けています。

<Hさん(男) 会社員>

## 【事例6】

### ● 大好きなバスケットボールと多くの人に支えられた学校生活。

中学の3年間は不登校で欠席日数が100日を超えていました。でも部活のバスケットボールは大好きで、学校を休んでいる時も顔を出すことができました。三者面談が近づくと親には「高校ぐらい卒業しないと将来困るよ」と言われていました。でも、休みが多くて成績も悪かったので自分では高校進学は無理だろうとあきらめていました。



面談で担任から勧められたのが自宅から近い定時制高校でした。

幸い合格できたので早速、バスケ部に入部しました。部活の時間は授業が終わった後、夜9時から10時までの1時間でしたが、楽しみがあったので学校に行くことができました。

勉強面では、数学の基礎が身に付いていなかったのが数学の時間は苦痛でしたが、少人数のクラスで2人の先生が分かれて丁寧に教えてくれたおかげで少しずつ分かるようになりました。また、授業後、個別に基礎学習の特訓を受けたこともありました。実技教科では作品づくりがありました。私は不器用なので苦労しましたが、個別補習により完成まで面倒をみてもらいました。

昼間のバイト先も夕方5時半の始業時間に間に合うように送り出してくれました。

4年間通い続けた定時制高校、バスケ部で毎年全国大会に出場できたことは私の自慢です。多くの方の応援のおかげで卒業ができ、この春からはバイト先の会社で正社員として働くことになりました。

<Iさん(男) 定時制高校4年生>

## 【事例7】

### ● マイペースに、前向きな学校生活を送れました。

中学校の時は教室に入れなくて不登校が続いていました。そんな私が選んだ進学先はフレックススクールでした。

フレックススクールでは、好きな授業を選べるだけでなく、自分のペースに合った時間割を作ることができました。私は、4年間で卒業すればよいと思っていたので、午前中には授業を入れず、昼過ぎから夕方までの授業を受ければよいスケジュールでした。

おかげで朝が苦手な私には大変通いやすかったです。また、ある科目で単位修得できなかった場合、同じ科目を翌年に、もう一度受講することもできたので、マイペースで学ぶことができました。

少人数の学校だったので、どの先生も気軽に話し掛けてくれたのが嬉しかったです。高校に入った時から、それまでの人間関係をリセットした気分になれました。先生方と素直な気持ちで話せたことが、前向きに学校生活を送ることができた要因だったと思います。

< Jさん(女) 専門学校生 >



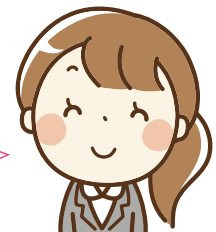
定時制高校教諭  
Kさん

生徒の中には、中学校の不登校経験者がいますが、高校進学をきっかけに気持ちを切り替え、多くの生徒が不登校から回復して登校できるようになります。学校でも少人数クラスを編成して、さまざまな生徒の状況に対応できるように配慮しています。高校での学びの環境の変化が回復に大きく影響しているのかもしれない。

社会的に自立できるよう、自分をコントロールして、自らの責任で行動できるようになって欲しいと思っています。

学校生活を過ごす中で、困ったことやどうしたらいいか悩むことは誰にでも起こります。勉強の仕方や友達関係、忘れ物や落とし物が多いなど、上手くいかないことをそのままにするのではなく、先生と一緒に乗り越え方を身に付け（学習し）、次のステージへ笑顔で進んでほしいと思っています。

特に配慮が必要な場合には、特別支援学校の先生と連携したり、通級指導教室の助けを借りたりしながら、困りごとを抱えた皆さんの支援を、できる限り行っています。



特別支援教育  
コーディネーター  
Lさん

対  
談

全日制課程（全日制高校）  
で学ぶ

定時制課程（定時制・  
フレックス高校）で学ぶ

通信制課程（通信制高校）  
で学ぶ

高等学校卒業程度認定  
試験合格を目指して学ぶ

資  
料

## 【事例8】

### ● 前籍校の修得単位を持ってフレックススクールへ編入学しました。

高校を卒業したら就職したいと考えていたので、商業高校へ進学しました。入学直後から希望した運動部に入部しましたが、勉強と部活の両立は思っていた以上に大変で、課題の提出に追われる毎日でした。1年生の単位は何とか修得できたのですが、2年生になると商業の検定試験も受験するようになって、ますます勉強が大変になりました。



そんな日が続いているうちに、朝起きるのが辛くなって学校を休むようになりました。欠席が続いているうちに、必修科目の欠時数も増えて単位修得が厳しくなりました。結局、3年生への進級ができなくなり、同級生に顔を合わせるのが嫌になって退学を決めました。

でも、就職の夢を捨てた訳ではなかったなので、フレックススクールに編入学することに決めました。前籍校で単位修得証明を発行してもらったところ、卒業に必要な残りの科目や単位数を把握でき、これを基に科目履修の計画を立てればよいことが分かりました。

また、入学したフレックススクールには商業科目もあったので、引き続き検定試験を受けました。

マイペースで勉強を続けることができ、その後、商業系の大学に進学して、経営学を学んでいます。将来は会社を設立する夢を持っています。

<Mさん(女) 大学2年生>

## 【事例9】

### ● 夢は、母国に戻って建設会社を作ること。

小学校5年生の時、両親と一緒に日本で暮らし始めました。最初は、日本語が分からなかったため、小学校では友だちができませんでした。両親の友人に勧められて、放課後、地元のNPO法人が運営する日本語教室に通うようになってから、少しずつ言葉を覚えていきました。中学校の部活動で友だちができると学校に行くことが楽しくなりました。



家計が苦しかったので、高校はアルバイトをしながら定時制高校に通うことにしました。

また、学費として、高等学校等就学支援金(※1)や奨学のための給付金(※2)を利用しています。その申請書類作成の際には、日本語ができない両親に対し、先生方は親切に書き方を教えてくれました。とてもありがたく思っています。

学校の授業で、日本語の説明で分からないことがあっても、NPO法人の方々から勉強を教えてもらえるのでとても助かっています。

母国に戻って建設関係の会社を作る夢があるので、実習科目は一生懸命に取り組んでいます。

<Nさん(男) 定時制高校3年生>

※1 高等学校等に通う所得等要件を満たす世帯の生徒に対して、授業料に充てるため、国が支援金を支給するもの。

※2 高等学校等における授業料以外の教育費負担を軽減するため、一定の要件を満たす世帯の保護者等に対し、群馬県が給付金を給付するもの。